

阿南市立椿町中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 自ら考え、判断し、表現できる生徒を育てるための創意工夫のある授業の実践
- 認め合い、意思の疎通を図り、学びあう授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
教諭 梶尾 順一	校長 三木 健司 教頭 岩浅 英夫 研修主任・小中一貫コーディネーター 久家 陽子

校長

三木 健司

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝の椿中タイムでの読書、漢字、音読、視写、により、読み書きの基本的なことについては一定の成果が見られ、自信を持つ生徒が多い。 ●各自の不得手な学習をそのまま放置している生徒が見られ、知識の定着が不十分な生徒への学習意欲の喚起や支援体制の改善・充実が課題である。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができ、正しい言葉で文章を読んだり書いたりできる。 ・身につけた知識や技能を、生活の場面や他の学習に活用することができる。 ・課題提出率100%をめざす。	・毎時間の「目標(めあて)」学習課題の提示を行い、計画的な指導をする。 ・わかりやすい授業を展開するとともに、毎時間の「まとめ」を行う。 ・生徒が興味をもって学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・学力定着のための家庭学習の内容や方法を、具体的に指示し点検する。	・椿中タイムの「音読・視写」の内容について、学校生活のなかで話題にする。 ・さらに、一人一人にあわせた指導をし、徹底をはかる。	・課題の提出に関してはほぼ100%。 ・視写資料を精選し親しみやすいものにしたため、意欲的に活動できた。 ・自分の言葉で書く、表現することを苦手としている生徒の割合は高い。	・週末課題で生徒の負担減。(家庭学習の定着・課題提出の工夫) ・椿中タイムの内容の再検討。(読書時間の確保) ・個に応じた課題の設定や発展的な課題の提供。 ・自分の言葉で書く、伝える活動の充実。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○個人差はあるものの、学習した知識を活用して課題に取り組もうとする生徒が多い。 ●少人数のために、多様な意見や考えを表現したり、書いて表現したりすることに課題が見られる。	・他の生徒にわかりやすく説明したり、相手の意見を聞いて、さらに意見を述べたりすることができる。 ・広い視野を持ち、多様な意見を理解し、互いに話し合い解決する方法を学ぶことができる。	・多様な意見や考えがうまれるような体験活動を積極的に取り入れる。 ・学習活動の中で自分の思いや考えを筋道立てて書いたり、伝え合ったりする機会を意図的に取り入れる。	・タブレット端末を用いて、お互いが意見交換をするような授業実践をする。	・授業改善やICT活用により、生徒が考えられるようになった。 ・学年後半には自分の意見を発表し、意見を認め合うことができた。 ・既習の内容をもとに考え、解決しようと努力できている。 ・多様な意見に出会えるような工夫がいろいろある。	・より多くの意見交換ができる環境づくり。 ・日常生活や他教科と関係のある問題解決の設定。 ・考えを伝える、相手の立場に立って考える活動を積極的に取り入れる。 ・タブレット活用方法の再考。(表現力の育成)

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○地道に学習に取り組む、学習や生活のきまりをしっかり守り、落ち着いた学校生活を送ることができる。 ●疑問に思うことを調べたり、質問したりする積極性や家庭での学習習慣の定着に課題が見られる。	・課題に積極的に取り組み、わからないことや疑問に思うことを調べたり、質問したりする中で学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。	・「とくしま授業技術の基礎・基本」にもある、ノート指導を徹底する。 ・生徒の興味・意欲を喚起し、生徒が能動的に取り組める授業実践をする。 ・個人面談や学年だより等を通して家庭での学習習慣の啓発・定着を図る。	・キャリア教育を充実させることにより、将来への展望を確立し、学ぶことの意義を生徒一人一人に実感させる。	・分からないことに質問をする生徒は約半数。 ・切実性のある課題を設定することで、もっと能動的な学びにできる。 ・生徒同士での教え合いは積極的にを行い、問題解決をすることができた。	・家庭学習をもっと意欲的にさせたい。 ・自分の思いを素直に伝えられるように指導。 ・自ら学び、自ら考える機会をつくる。(生徒の意識改革、総合などで) ・教職員の意識改革。(学力向上推進委員会の定期的な実施)

令和4年度 学力向上ロードマップ

